

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	保健体育
----	------

発行者 の番号 ・略称	教科書 の記号 ・番号	教科書名	調査結果の概要
2 東書	保体701	新しい保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・「見つける→学習課題→課題の解決→広げる」と学習の流れが明確になっており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができ、主体的・対話的な学びとなるように工夫されている。 ・毎時間の学習のキーワードが示されており、学習の課題がわかりやすい。また巻末にそのキーワードの解説があり、活用しやすい。 ・WEBサイト参考資料として、QRコードにより、深い学びができるよう工夫されている。その内容も独自の編集で充実している。P42「リラクセーションの方法」の動画は、教科書に沿った内容になっておりたいへんわかりやすい。 ・章末資料では各章に関連した資料を用い、より学習を深めることができる。「学習のまとめ」で復習ポイントがまとめられており、振り返り学習等配慮されている。 ・P70～71、自然災害の写真が小さく、地震のみの資料にとらえてしまう。章末資料のさまざまな自然災害、台風や大雨、竜巻、落雷、火山噴火などの扱いがあれば、さらに興味関心を引きやすい。 ・P81では、実習資料「心肺蘇生の方法」についてはイラスト・写真などで見やすく、理解しやすい。 ・P132「熱中症の予防と手当」では、図解入りでわかりやすく表現、説明されている。また、応急手当の手順もフローチャートで示しており、見やすく、理解しやすい。 ・全体的にイラストやグラフが多くて、本文での説明が少ない。 ・P21資料3では発育曲線のそれぞれの型の解説がされており、大変わかりやすい。しかし、「各器官の発育の仕方」のグラフ掲載では、「スキヤモン」の名称がない。

<p>4 大日本</p>	<p>保体 702</p>	<p>中学校保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左ページが本文、右ページが資料という紙面構成でたいへん見やすいが、説明文量など内容的に少し物足りなさを感じる。各小单元には「学習のねらい」、「つかもう」→「話し合ってみよう」→「活用して深めよう」など、学習活動の流れがわかりやすく、学びをより深める工夫がされている。 ・章ごとに「学びを活かそう」を設定しており、それぞれの考えを書いたり、グループで話し合ったことをまとめたりする欄がある。主体的・対話的な活動につなげることができる。また、「学習のまとめ」で復習ポイントがまとめられており、理解しやすい。 ・P36～P37 資料9の「生命の誕生」では受精から誕生までの成長過程が写真などの説明でわかりやすい。 ・P57「運動やスポーツが心身や社会に及ぼす効果」の資料1では、体力3要素（調整力・持久力・筋力）の年間発達量の変化を色分けグラフで表し、中学生期に発達する力がわかりやすく示されている。 ・P62～67「安全な運動やスポーツの行い方」章末資料では、運動やスポーツの技術と学び方の例で、各領域、競技の特徴がまとめられ理解しやすい資料である。 ・P75 資料3、グラフ「日本人のがんの原因」で「感染」の割合が示されているが、その説明や補足資料がほとんどなく、混乱を招くと思われる。 ・第4章「傷害の防止」においては、イラスト等を使用することで、けがや交通事故の要因を理解しやすくなっている。P98～「自然災害」の例でも多くの写真等が使われており、災害の恐ろしさが伝わる内容になっている。 ・P106「心肺蘇生法」では、心肺蘇生法の流れや方法をフローチャートや写真で確認でき、理解しやすくなっている。また、AEDの活用についても同様である。 ・WEBサイトで「まとめの問題」などが準備され、家庭や学校でプリントアウトしていつでも手軽に活用することができる。各HP等につながり専門的な内容で情報量も多い。授業で使用する場合は情報を精選する必要があり使いにくい。 ・全体的に資料の文字が小さく見づらい。 ・第5章「健康な生活と病気の予防」P135の資料4「侵入してきた病原体などから体を守る仕組み」であるが、リンパ球の名称が載っていない。
------------------	---------------	----------------	---

<p>50 大修館</p>	<p>保体 703</p>	<p>最新 中学校保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や題ごとに色合いを変えており、たいへん使いやすい構成になっている。全体的に写真やイラスト、図表など多く活用し、見やすい内容となっている。 ・各項目のおわりに「学習のまとめ」が設けられており、自ら考え・判断し・表現する力の定着を図れるよう工夫されている。 ・各章の最後には、「章のまとめ」のページが設けられている。確認問題があり、学習の振り返りがしやすい内容となっている。 ・WEBサイト参考資料として、QRコードにより、関連しているHP等につながるようになっている。専門的な内容で情報量も多くわかりやすく、関心・意欲の向上につながる。授業で使用する場合、精選する必要がある。 ・口絵7で持続可能な社会に向けて、2030年までに達成をめざす「SDGs」を中学生の保健体育の学習と関連付けて、写真やイラストでわかりやすく取り上げており、身近な問題として考えられるよう工夫されている。 ・P24「休養・睡眠と健康」では関連事項としてP60「運動やスポーツの体と心への効果」を示し、体育分野との関連が図られている。 ・P44「自己形成」資料①で、ジョハリの窓を用いた自己認知の資料を紹介し、新たな自分に気づいたり、考えたりすることができるようになっている。 ・P50「ストレスへの対処の仕方」では、実際に体を動かして身につける内容を「実習リラクセーションの方法」として掲載し、イラストと説明文でわかりやすく解説している。 ・P62では、学習指導要領でも重視されている「体づくり運動」の学習を通して、体力を高める必要性をイラストなどでわかりやすく説明している ・主体的、対話的で深い学びのために、P62、P68～の「クローズアップ」や「特集資料」で本文の内容をさらに詳しく知ることができる。 ・コラム欄が設けられ、学習内容と実生活とが関連した興味ある読み物資料が載っている。P139「感染症の予防」での「マスクはなぜつける？」が、現在の状況や生活と結びついており、その効果や方法など、わかりやすく解説されている。 ・P106「自然災害」では写真等が小さく、災害の恐ろしさが伝わりにくい。
-------------------	---------------	-------------------	--

<p>224 学 研</p>	<p>保体 704</p>	<p>中学保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙イラストが一見、保健体育らしくないが、若者や高齢者、車椅子の人などが描かれており、共生や健康生活について考える教科だというイメージがわかりやすい。 ・全体的に写真やイラスト、図表など多く活用しバランスがよく見やすい内容となっている。 ・各項目で「課題をつかむ」「考える・調べる」で実践的に内容を理解できるように工夫されている。また、「まとめる・深める」の項目で、課題解決に向けて自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりしながら、思考・判断・表現力を養うことができるよう配慮されている。 ・P33「食生活と健康」資料①～③では、1日のエネルギー摂取量の目安と身近な食品のエネルギー量、運動で消費されるエネルギー量が書かれており、対比しながら考えられるよう工夫され、実生活に活かせる資料となっている。 ・P38 ではアレルギーについて説明されており、アレルゲンやその症状、食品の表示例など実生活に即した内容でわかりやすい。 ・P53「性とどう向き合うか」では、現在、社会問題になっているSNSを取り上げ、人権・道徳教育とも関連付けた内容となっている。また、「まとめる・深める」では、「どう対処すればよいか」など、身近で具体的な問いがあり、生徒が自分の事として考えられるようになっていいる。 ・P60～P67「欲求不満やストレスへの対処」では、「実習」や「探究しようよ」などのコーナーでイラスト等が多く使われており、わかりやすい内容となっている。 ・体育編第3章、文化としてのスポーツでは特にP142～「オリンピック・パラリンピック」をイラスト・写真・図表を取り入れ詳しく紹介している。 ・P148では、探究4で「SDGs」を紹介し、持続可能な社会に向けて、スポーツとのかかわり方と関連付けて、写真やイラストを交え、身近な問題として考えられるよう工夫されている。 ・WEBサイト参考資料として、QRコードにより、各HP等につながり専門的な内容で情報量も多い。家庭で活用する場合、関心・意欲の向上につながるが、授業で使用する場合は情報を精選する必要がある、使いにくい部分がある。 ・全体的に黒太文字で強調されるキーワードが少ない。
--------------------	---------------	---------------	---